

家族が増えた喜びを一緒に

朋恵、進行がンを発症し二十七歳の若さで旅立ってから十一年。遠くから、いつも家族を見守ってくれてありがとう。

覚えているだろうか。小学生の頃、家族旅行の電車内ではしゃぐ弟たちに「うるさい。他の人が迷惑でしょ」ってよく注意していたな。「お姉ちゃんはいつも怒ってばかり。一緒にいると楽しくない」と、文句を言っていた弟たち。

だけど芸術高校中退しイギリスへホームステイ、アルバイトしながら大検取得、四年かけ大学入学、生きる望みを最期まで捨てずがんばった闘病生活等、朋恵の強い自立心や行動力、ポジティブな生き方を弟たちは尊敬している。もちろんお父さんもお母さんもだ。ハラハラドキドキした時もあったけどね。

嬉しい知らせがあるんだ。今年一月、弟の直人が結婚したよ。直人は朋恵が描いたデッサン画をとても気に入って、新居に飾っているらしい。そのデッサン画を式場の入口正面に飾り、出席者を出迎えたんだ。葬儀の会葬礼状の裏に印刷した、あのデッサン画だよ。

結婚式では、父親が新郎新婦への手紙を披露する場面があった。お父さんが「天国にいる朋恵も『可愛い妹ができた』ときっと喜んでいると思う」と読んで、読んだ時、「直人の目からキラリと光る涙が零れた」ってお母さんが言っていた。

さらに披露宴ではサプライズがあった。朋恵の席を用意してくれたんだ。座席表には「新郎姉・朋恵」とあり、座席カードも立っていた。カードの裏には、「いつも応援してくれていたお姉ちゃん。天国からぜひ、祝って欲しいな」と書かれていた。

事前に知ったお父さんとお母さんは、微笑む朋恵の写真と赤いバラの一輪挿しをテーブルに供えた。本来は朋恵が着席するはずの「指定席」、空席であることが不思議だった。「やったね、直人。結婚おめでとう」という朋恵の声が聞こえた気がした。ひょっとしたら遠い天国からかけつけてくれたのかな。

直人に続き大志も結婚が決まり、今年十一月に結婚式を予定している。「幸せになりなよ。彼女を大切にね」と、いつもの口調で大志を祝って欲しい。弟たちのパートナーは会ったこともない朋恵をごく自然に「お姉さん」と慕ってくれている。

朋恵を亡くした悲しさ、辛さは言葉では言い尽くせない。だからかな、新しい家族が増えた喜び、幸せをひしひしと感じるんだ。「義妹たちに『お父さん』と呼ばれると嬉しいでしょ」って朋恵に言われそうだ。朋恵も一緒に味わってもらいたい、大切な家族なんだから。